



公益財団法人 宮城県対がん協会

ともしび

TOMOSHIBI



第160号

2025年1月1日

「ともしび」題字は
(故)黒川利雄博士

当協会の 特色

- 高い精密検査受診率と高い早期がん発見率
- 専門医療機関紹介
- 高い信頼性に基づく精度管理
- 一貫したデータ管理



写真:宮城県観光プロモーション推進室

CONTENTS

- | | |
|--------------------------------------|------------------------------------|
| ② 新年の挨拶 | ⑦ リレー・フォー・ライフ/宮婦連ブロック別研修会 |
| ③ 宮城県対がん協会初代細胞診センター
所長 東岩井久先生を偲んで | ⑧ がん検診センター・市町村健康まつり |
| ④ がん征圧全国大会 | ⑨ みやぎのがんなんでも相談のご案内 |
| ⑤ 2025年度がん検診事業説明会/
がん予防研修会 | ⑩ 健康コラム |
| ⑥ がん征圧月間行事 | ⑫ 篤志・黒川・賛助会費名簿/継続寄付のお願い |
| | ⑬ 2025年度黒川利雄がん研究基金
研究助成金募集のお知らせ |

早期発見
早期治療

がん検診は
定期的に!



ブー子ちゃん がん助くん
がん征圧イメージキャラクター

令和7年 新春の ご挨拶



公益財団法人
宮城県対がん協会
会長 下瀬川 徹



新年明けましておめでとうございます。

昨年暮から9連休と大型の休日となりました。お正月の過ごし方も多様化してきているように感じますが、皆さんはどのように過ごされたでしょうか。

昨年の元日は孫と神社参拝中に境内で大きな揺れを感じました。あれから1年が経ちます。9月には豪雨のため震災の2次災害と言ってよいでしょう、能登各地で土砂崩れが発生しました。度重なる被害を受けた能登の皆さんがどのようなお正月を過ごされているか気がかりです。被災地の1日も早い復興をお祈りし、今年は大いなる災害のない年になるよう祈願します。

自然災害を未然に防ぐことは、現代の科学力を持ってしても甚だ困難な課題ですが、病気を防ぐことは個人の努力でかなりの部分が可能です。「がん」も然り。がん発症を高めるリスク因子を普段から回避することは、生涯を健康に過ごすための基本姿勢です。禁煙、飲酒習慣の改善、適切な体重維持、十分な野菜の摂取、適度の運動などは「がん」の一次予防と呼ばれ、毎日の積み重ねです。「がん」の2次予防が検診による早期発見と早期治療であり、これも自分の命を大切に、ご家庭を守るための大事な取り組みです。

「がん検診の精度管理」という言葉をご存知でしょうか。これは、検診によって「がん」が見落としなく十分正確に拾い上げられているか、拾い上げに余計な検査が行われていないか、拾い上げた病変が正確に「がん」と診断されているかなど、がん検診の作業過程を客観的に分析し管理することです。このためには、受診者の数、拾い上げでチェックされた方の数、精密検査を受けられた方の数や最終的に「がん」と診断確定された方の数を正確に把握することが大切で、受診者一人一人を追跡していく必要があります。「がん検診の精度管理」をきちんと行うためには、多くの人手と手間がかかりますから、検診費用も高くなる傾向があります。「がん検診」は値段が安ければ良いのではなく、どうせ受けるのならば精度管理の行き届いた信頼できる「がん検診」を

受けることが大切です。残念ながら職域検診や検診団体によっては十分に精度管理がされているか不明な「がん検診」も多く、この点については受診者の方々にはよく情報を集めるようお勧めします。

宮城県は令和6年3月にがん対策推進計画を6年ぶりに改定し、第4期(2024-2029年度)に当たる今後6年間のがん対策について詳細を発表しました。全体目標は、「誰一人取り残さないがん対策を推進し、全ての県民とともにがんの克服と共生を目指す。」とされ、「がん予防」、「がん医療の充実」、「がんとの共生」の3本の柱を分野別目標として定めました。急速に進む高齢化を意識したスローガンと理解され、「誰一人取り残さないがん対策の推進」に力強さと共感を覚えます。多くのがんは年齢が高くなると発生しやすくなり、今後は一層の増加が予想される高齢者のがん対策を強化する必要があるでしょう。高齢者が質の高い余生を過ごされるためにはがんの早期発見と早期治療がより重要となります。早期発見は侵襲の少ない治療に繋がり、医療費の抑制、今後危惧される労働者人口および医療従事者人口の減少にとっても重要な課題です。欧米の「がん検診」のほとんどが受診年齢に70歳までの制限がありますが、日本の「がん検診」は幸い全てのがん検診で受診年齢に上限がありません。日本は全ての国民の健康を大切に考える国家であり、これからの日本の社会構造の変化を考えた場合、私は高齢者層の「がん検診」には重要な意義があると考えています。

昨年4月、当協会では新がん検診センターがオープンとなり、おかげさまで好評をいただいております。「次世代型がん検診」を理念として建設しましたが、これに沿った快適な受診環境の提供と当協会の基本姿勢である高い精度管理に基づいた良質ながん検診を実施しております。是非、多くの皆さんが当協会を利用し、今年も一年を通じて健康に過ごされるようお祈りします。

宮城県対がん協会初代細胞診センター所長
同 学術顧問

東岩井 久先生を偲んで

東岩井先生 略歴・受賞歴

公益財団法人
宮城県対がん協会

細胞診センター所長 伊藤 潔



- 昭和36年 東北大学医学部医学科 卒業
- 昭和37年 東北大学医学部産婦人科学教室 入局
- 昭和50年 宮城県対がん協会検診センター 副所長
- 昭和56年 宮城県対がん協会細胞診センター 所長 (平成7年まで)
- 平成11年 仙台市立病院病院長 (平成13年まで)
- 平成13年 村口きよ女性クリニック 顧問
- 平成15年 平成15年度日本対がん協会賞(個人の部)

去る令和6年9月13日、宮城県対がん協会細胞診センター初代所長、学術顧問、仙台市立病院名誉院長 東岩井久先生がご逝去されました。享年89歳、当協会の大きな支えとなってこられた先生の突然の訃報に、協会職員一同、深い落胆と悲しみを覚えています。

先生は昭和10年、石巻市のお生まれで、小学校から仙台一高、そして東北大学医学部大学院ご卒業までずっと仙台で教育を受けられ「根っからの仙台人」と自称しておられました。

東北大学医学部をご卒業後、同産婦人科教室の第3研究室(現腫瘍グループ)に入られたのは昭和37年ですが、奇しくもこの年は南方村で宮城県初の子宮がん集団検診が行われた年でもあります。先生はそれ以来一貫して子宮がん検診と細胞診断学に携わってこられました。当協会では昭和50年度から検診センター副所長として検診体制の構築に尽力され、子宮がん検診の根幹は細胞診検査であるとの信念から、昭和56年度には細胞診センターを創設し、初代所長として陣頭指揮に立ち、宮城県の子宮がん検診の拡充・発展を図られました。また質の高い精度管理を目指し、細胞診指導医と細胞検査士が一体化できる体制を確立しました。宮城県の子宮がん死亡率は受診者の増加とともに次第に減少し、検診開始当初の12.1(10万人対比)から平成6年度には4.0へと1/3に減少し、全国最低となりました。平成10年に主催された第37回日本臨床細胞学会秋期大会では「宮城県における婦人科集検の歴史」としてこのことを会長講演なさっています。さらにこれらの業績により、平成15年度には日本対がん協会賞を受賞しました。平成8年に所長を退任なさった後も、仙台市立病院病院長などでご多忙な中、当協会の理事、ついで学術顧問とし

て、協会を支えてくださいました。

先生のご趣味は多彩でした。一つは山歩きで、77歳の時に(!)エベレスト街道のトレッキングをなさったとのこと。そしてもう一つは、合唱です。小学4年生の時にNHKの仙台放送児童合唱団の1期生として合唱と関わりをもって以来、歌うことを趣味とし、茶畑男声合唱団(仙台一高OBで結成)や「HKジュニアコーラスGサンズ」に所属し、演奏会での「バリトン」の美声を披露していたとのこと。

先生の細胞診への情熱は終生変わらず、今年も月1回、7月まで、細胞診断のために来協なさっていました。また細胞診の勉強会には必ずご出席され、的確で鋭い質問に、驚かされることも多々ありました。協会にいらっしゃり、細胞診断を始めるときの「お〜い、診断は始めるぞう〜!」との、頼りがいと優しさを奥にひそめた美声が、もう聞けなくなるのは本当に残念でなりません。

先生、どうぞ、安らかに眠りください。心からご冥福をお祈りしております。合掌。

(東岩井先生が長らく顧問をしておられた村口きよ女性クリニックの「きよりNEWS」から多くのエピソードを頂きました。村口きよ先生に心から感謝申し上げます。)



平成15年9月17日 東岩井久常任理事「日本対がん協会賞」受賞

がん征圧全国大会

公益財団法人日本対がん協会では毎年9月を「がん征圧月間」と位置付け、がん予防、がんの知識と検診の重要性を伝える啓発運動を行なっています。

今年のがん征圧全国大会は9月13日(金)に、さいたま市大宮区のソニックシティで開催され、全国の医療機関関係者や支部関係者ら400名が参加し、がん撲滅に向けて決意を新たにしました。

今大会は「彩(さい)の国さいたま」から羽ばたこうがん検診の明日へ」をテーマに開催され、「朝日がん大賞」、「がん征圧スローガン入賞者」、「永年勤続者」の表彰が執り行われました。記念講演では、「闘病体験記



～悪性リンパ腫ステージ4からの寛解～」と題し、フリーアナウンサーの笠井信輔さんより自身の闘病生活、激動の日々を振り返り検診の必要性、早期発見、早期治療の重要性をお話してくださいました。笑いあり、涙ありでとても心に残る素晴らしい講演でした。最後に、次期開催地の兵庫県支部からの挨拶で幕を閉じました。

前日のシンポジウムでは、当協会の加藤勝章所長、鈴木昭彦乳がん診断委員長など5名の先生方がパネリストとして講演を行い、「がん検診の新技术導入の課題」について意見を交わされました。



シンポジウムでの加藤所長の講演内容は「対策型検診のための胃内視鏡検診マニュアル改訂版の策定とその背景について」と題し、2016年度に胃がん検診に導入された胃内視鏡検査(50歳以上、2年に1回)について解説しました。導入自治体数、受診数ともに増え、胃X線検査を行う自治体の約半数が胃内視鏡検査を併用しています。

胃内視鏡検査の判定は当初、検査医と読影委員会がダブルチェックを行い、「胃がんなし」「胃がん疑い」「胃がん」「胃がん以外の悪性腫瘍」の4区分でした。しかし、同時生検を精密検査扱いとすることが認識されていないことや、職域検診でダブルチェックの実施が半数ほどであると分かりました。また、「要精検」の定義の違いにより要精検率にバラつきが生じたり、胃がん以外の悪性腫瘍や良性疾患が要精検の対象となったりする問題も浮かんできました。

そのため、加藤所長が編集委員長を務め、検診マニ

アルの2024年度版(改訂第2版)が2024年6月に刊行されました。検査対象は「胃がん」のみであり読影結果は「胃がん」「胃がん疑い」「胃がんなし」の3区分を基本としました。「胃がん以外の悪性腫瘍(疑いを含む)」は「胃がんなし」とし、検診医が受診者に対し、臨床的に必要な措置を取るよう求めています。



2024年度 日本対がん協会賞・朝日がん大賞の受賞者

朝日がん大賞

中釜 斉

(なかがま・ひとし) 68歳
国立がん研究センター理事

日本対がん協会賞

【個人の部】

雨宮 清

(あめみや・きよし) 79歳
雨宮クリニック 院長

池田 琢哉

(いけだ・たくや) 77歳
鹿児島県民総合保健センター 前理事長

【団体の部】

**滋賀県がん患者
団体連絡協議会**

(菊井津多子会長)

長田 忠孝

(おさだ・ただよし) 79歳
山梨県健康管理事業団 理事

久米川 啓

(くめがわ・はじめ) 70歳
香川県総合健診協会 会長

※敬称略、年齢は2024年9月1日現在

2025年度がん検診事業説明会

10月7日(月)県内各市町村及び主たる事業所の担当者等を対象に「2025年度がん検診事業説明会並びにがん予防研修会」がフォレスト仙台で開催されました。

説明会の冒頭、当協会下瀬川会長は挨拶の中で、多くの皆様のご支援により念願であった新がん検診センターが完成し、コンセプト通りの運用ができているとして出席者に感謝の意を伝えました。また、次年度も引き続き胃内視鏡検診の充実を努めたいと考えており、対策型胃内視鏡検診体制の導入に向けて各市町村に検討をお願いしました。

続いて、阿部事務局長より次年度のがん検診事業計画について説明が行われました。県民のがん検診受診の意識の向上のためには、がんについての正しい知識の提供・検診の重要性の普及啓発が必要であることから、各市町村に働きかけを呼びかけました。そのうえで、「宮城方式」を基本とした各種がん検診及びがん・生活習慣病健診を実施し、宮城県第4期がん対策推進計画に掲げられた「がん検診受診率の目標値を70%以上・精密検査受診率を95%以上」の実現に向けて取り組んでいくと述べました。

最後に、計画課奥山主幹、情報システム課岡崎補佐より、WEB予約・受診者誘導システム等当協会の利便性向上についての取り組みを紹介いたしました。



がん予防研修会



がん検診事業説明会に引き続き、がん予防研修会が行われました。プログラム1として、東北大学高度教養教育・学生支援機構臨床医学開発室井上淳先生より「増加するメタボ肝がん 予防と早期発見のために」と題したご講演をいただきました。現代の過剰な栄養摂取により肝臓には脂肪が蓄積されやすく、脂肪肝が見つかった場合は発癌リスクの高い症例を絞り込み効率的に監視を行うこと、肝臓だけでなくメタボリック症候群全体に対する治療が必要であることが説明されました。

プログラム2では、国立がん研究センターがん対策研究所町井涼子先生より、「対策型検診の精度管理ー「事業評価のためのチェックリスト」の要点」と題したご講演をいただきました。がん検診の成功のためには正しい検診・適切な精度管理・受診率の向上が必要であり、全ての地域において検診の全工程を統一された方法で適切に行うこと、精度管理の指標を正しく活用するためには指標の精度担保が重要であることが説明されました。

がん征圧月間行事

■ がん講演会

9月25日(水)青葉区五橋の仙台市福祉プラザふれあいホールにおいて「がん講演会」が開催されました。当協会細胞診センター所長の伊藤潔先生が講師となり、「子宮がんの徹底予防ー若年から高齢まで、いつから何に気をつける?ー」と題した講演が行われました。20代後半から罹患率が増加する子宮がんの予防や注意点、定期的な検診の重要性について分かりやすく解説していただきました。なお、講演会の動画はHPからご覧いただけます。

2025年度は9月17日(水)戦災復興記念館(青葉区大町)での開催を予定しておりますので、是非ご参加ください。



■ がん予防パネル展

9月9日(月)から20日(金)まで宮城県庁2階回廊において「がん予防パネル展」を行い、多くの来庁者にご覧いただき、がん予防の大切さをアピールできました。

また、9月25日(水)の「がん講演会」当日に行った「がん予防パネル展」では、パネル展示の他、乳房の視触診模型を使った自己検診法を多くの方に体験していただきました。



■ 懸垂幕

受けよう検診!!9月は「がん征圧月間」がん征圧月間を広く知ってもらうため、がん検診センター、仙台市本局、泉・青葉・太白の各区役所に懸垂幕を掲示させていただきました。



■ ラジオカー取材

9月6日(金)宮城県対がん協会で東北放送ラジオカーの取材がありました。インタビューは生放送され、4月にリニューアルした新がん検診センターのPRを当センター浅沼副所長よりさせていただきました。



リレー・フォー・ライフ

10月19日(土)から20日(日)にかけて、仙台市青葉山公園 仙臺緑彩館でリレー・フォー・ライフ・ジャパンみやぎ2024が開催されました。がんサバイバー、ケアギバー、支援団体など約600名が参加しました。初日は12時の開会式に先立って藤崎前から会場前までの街頭行進(市内ウォーク)に参加した後、開会式、会場でのウォークに参加しました。また、ウォークトラックの外周にブースを設置し、21時までがん検診啓発パネル、乳房の視触診模型の展示、啓発グッズの配布を行いました。夜間から明け方までのウォークが予定されていましたが、強風によりルミナリエが撤収されウォークイベントも中断となりました。2日目は8時よりブース、ウォーク参加を開始し、12時の閉会式に参加しました。強風のためパネル展示は取り止め、チラシの掲示のみとなりました。事前に作成したルミナリエでのイベント参加他、当協会からも約40名の職員がイベントやウォークイベントに参加しました。やや天候に恵まれない時間帯もありましたが、参加者は思い思いにプログラムを楽しんでいる様子でした。



宮婦連ブロック別研修会

今年も宮婦連ブロック別研修会に参加をさせていただきました。この研修会の趣旨は、会員の交流を通し、明るい地域づくりと参加者の一層の自己実現を図ることを目的にした勉強会です。

宮城県対がん協会もそれぞれの会場で講話の時間をいただき、今年は「～胃がんについて～」と題した保健師から講話と健康クイズを行わせていただきました。

ブロック	月日(曜日)	開催場所
仙北ブロック	7月10日(水)	気仙沼中央公民館
中央ブロック	7月23日(火)	多賀城文化センター

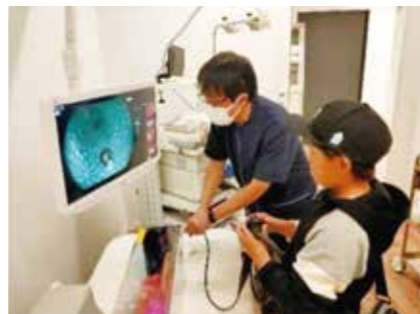


宮城県対がん協会健康まつり

11月2日(土)、宮城県対がん協会健康まつりを5年ぶりに、新しくなったがん検診センターのPRも兼ねて開催しました。当日はあいにくの雨模様の中、200名を超える皆さまがご来場くださり、健康チェックや内視鏡体験、ミニコンサート、キッチンカー、物販コーナーなど、約30箇所のコーナーにご参加いただきました。会場には胃がん検診車乗車体験コーナーを設置し、普段はなかなか乗る機会が無いお子様にも大勢ご参加いただき、がん検診の重要性について知っていただきました。なお、キッチンカーなどの外部物販・体験コーナーを除く各コーナーでの売上(51,800円)は、全額がん知識の普及啓発・調査研究事業等に寄付させていただきました。ご参加、ご協力いただいた皆様、誠にありがとうございました。



健康チェックコーナー



内視鏡体験コーナー



ステージ(なかのや ひとしさん)



緑日コーナー



がん検診車乗車体験

市町村健康まつり

コロナ禍により近年は開催が見送られておりましたが、今年は県内多くの市町村で健康まつりが開催されました。健康まつりは例年7月頃から始まり、10月・11月は毎週のように開催されています。当協会では、10月19日(土)・20日(日)大崎市「健康と福祉のつどい」、10月27日(日)丸森町「丸森町合併70周年記念 健康と福祉のつどい」、11月9日(土)名取市「歯と口と健康のひろば」、11月10日(日)利府町「まちかど保健室」に参加させていただき、リーフレット配布とパネル展示を通してがん検診の啓発を行いました。特に来場した多くの女性は、乳がんの自己検診法に聞き入っている様子でした。中にはご自身やご家族のがん罹患経験についてお話しくださる方もいらっしゃり、協会スタッフにとっても貴重な経験となりました。

来年お近くで健康まつり開催の際には是非お出かけしてみたいはいかがでしょうか。

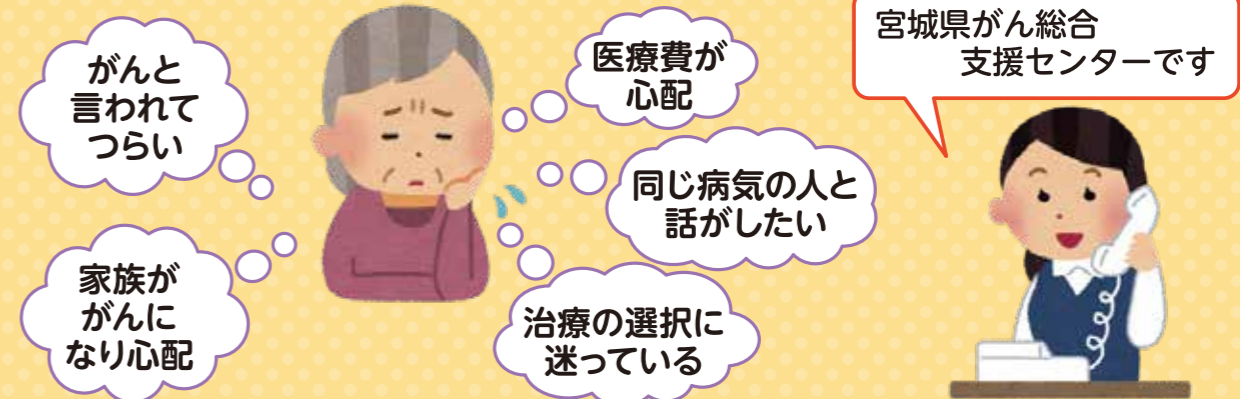


みやぎのがんなんでも相談

～宮城県がん総合支援センターのご案内～

がんに関する心配ごとや悩みに専門の相談員が応じます。
ひとりで悩まず、お話してみませんか?

相談無料



ご本人、ご家族、どなたでもご相談ください。(個人情報厳守します)

がん相談

相談方法 電話、面談(要予約制)、メール、FAX
TEL 022-263-1560 **FAX** 022-263-1548
メール zaitaku-gan@miyagi-taigan.or.jp
 (ホームページの相談フォームをご利用ください) <https://miyagi-gansupport.com/>



相談受付 月曜日～金曜日(祝日・休日、年末年始は除く)
午前9時～午後4時まで

費用 相談は無料です。(通話料は相談者の負担となります。)

住所 〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉5-7-30 宮城県対がん協会内

※必要な場合は適切な窓口を紹介します。※症状や病気に関する診断や治療について判断することはできません。※個人情報は厳守いたします。



がん相談の他に・・・



がん患者会の支援

「がん患者会・サロン ネットワークみやぎ」の事務局を担当しています。現在30団体が加入していますので、患者会の活動についてもお伝えします。

がんピアサポーターの育成

がんのピアサポーターとは「がんを体験した人同士がピア(仲間)として体験や悩みを共有し、ともに考え、がん患者さんや(またはその家族)を支援(サポート)する人のことをいいます。研修会の開催や病院等での実習を行っています。

情報は“力”あなたの療養生活を左右することがあります!

当センターはがん患者さんやご家族に役立つ情報をお伝えします。

ご連絡お待ちしております。

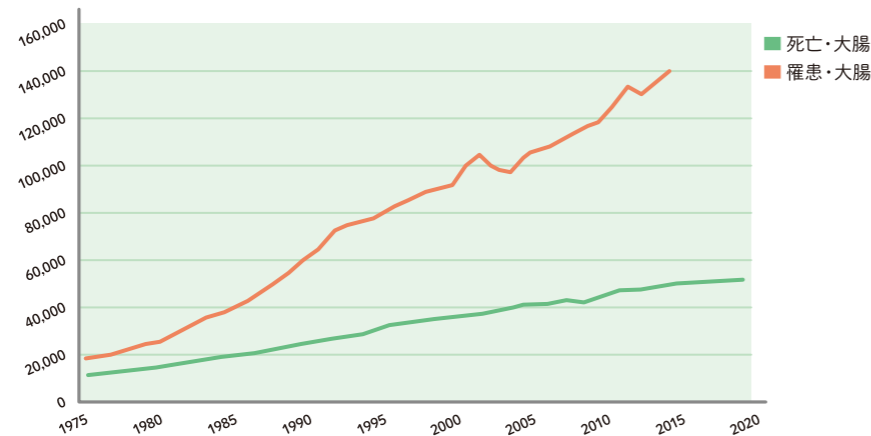
健康コラム

増えてます、大腸がん

がん死亡率 男性**2位** 女性**1位**

がんは日本人の死亡原因の第1位です。その中でも大腸がんは近年増加しており、がん罹患数(がんにかかった人)は第1位、がんによる死亡数では男性で第2位、女性で第1位となっています。

死亡数(全国)・罹患数(全国) 年次推移【男女計、全年齢】



資料: 国立がん研究センターがん対策情報センター
Source: Center for Cancer Control and Information Services, National Cancer Center, Japan

症状

早期の段階ではほとんど症状はありません。進行すると腹痛や出血、便秘、下痢、便が細くなる、残便感などの症状が出てきます。

原因

増えている主な原因として飲酒や運動不足、喫煙、肥満が挙げられます。また肉などの動物性脂肪の摂取量増加と食物繊維の摂取量低下など、食生活の欧米化が大腸がん増加の原因として考えられています。



大腸がんを防ぐ生活習慣のポイント



Point

■ 偏った食生活を改善しましょう

大腸がんの原因として高脂質な食事や食物繊維の摂取低下があげられます。肥満にならないように栄養バランスに気を付けるとともに、野菜やきのこなど食物繊維を多くとり、ハムやソーセージなどの加工肉をとりすぎないようにしましょう。

■ 適度な運動をしましょう

大腸がんは運動による予防効果が期待できます。階段を使う、駐車場を遠くに停めるなど、日常生活で運動する機会を増やし、習慣化していきましょう。



大腸がん検診を受けましょう



年一回は便潜血検査を!



大腸がん検診では免疫学的便潜血検査(スティック2日法)を実施しています。便にスティックをこすりつけて採便する方法で、家で簡単にできる検査です。目には見えないわずかな血液が便に混じっていないか調べることができます。常に病変から出血しているとは限らないので、違う日で2日分とることが理想です。

繰り返し検診を受けることで進行がんは約50%減少、死亡率は約60~80%低下させることが証明されています。早期がん(1期)であれば5年生存率は95%以上です。検診のお申し込みはお住いの各市町村や事業所へお問い合わせください。また、宮城県対がん協会でも個人的に受けることができます。ただし、血便や腹痛、残便感などの症状がある場合は検診ではなく早めに医療機関を受診しましょう。

国立がん研究センターHPより



精密検査を受けましょう!

精密検査に該当した方は検査を受けることが大切です。便に血が混じる原因は様々あり、大腸がんはもちろん、大腸ポリープや痔、腸が炎症を起こしていることでも出血することがあります。便潜血検査では何が原因で出血しているかまではわかりません。大腸がんは早期に発見できれば完治する確率が高くなります。発見が早ければお腹を切らずに内視鏡で治療できます。

精密検査の第一選択は全大腸内視鏡検査になります。全大腸内視鏡検査が困難な場合はS状結腸内視鏡検査と注腸エックス線検査を併用(宮城県対がん協会では大腸CT検査を併用)します。



2022年度に宮城県対がん協会で見つかった大腸がん239名のうち早期がんは171名で71.5%でした。早期がんのうち内視鏡での治療は149名で87.1%を占めていました。

篤志・黒川・賛助会費

■篤志寄付金

住友生命保険相互会社仙台支社、加藤登世子、(公財)やまがた健康推進機構、イシイ株式会社、木村毅、泉田京子、登米市立登米中学校、阿部生田子、街頭活動委員会、センター募金箱

■黒川利雄がん研究基金

布田直樹、及川貴司、高橋啓、阿部洋

■特定

株式会社 イート

■法人

株式会社佐藤製線所、気仙沼窯業株式会社、マルニ食品株式会社 代表取締役 二階堂玲子、株式会社リバーヴ、株式会社あさの、株式会社エコー設備工業、株式会社ひまわり薬局、株式会社銀座薬局 代表取締役 牛澤啓至、常盤洋紙株式会社、株式会社東北保険グループ 代表取締役 佐藤秀樹、株式会社羽田電機工業所、宮城石灰工業株式会社、有限会社ふじや千舟、公益社団法人仙台市防災安全協会、熱海建設株式会社、東北放送株式会社、青葉緑化工業株式会社、株式会社白松がモナカ本舗、菅葦建設株式会社、株式会社ダイコクヤ、カイリク株式会社、株式会社T・D・C、株式会社小山商会、涌谷観光株式会社、株式会社佐々直、松林商事株式会社、宮城商事株式会社、株式会社仙台カントリークラブ、株式会社新日電業商会、株式会社佐々啓、仙台弁護士会、クリア工業株式会社、株式会社橋本タイヤサービス、東日本メディカルシステム株式会社、アルプスアルパイン株式会社、渥美工業(株)仙台支店、東日本興業株式会社、株式会社仙台放送、気仙沼商工会議所、古川商工会議所、若生工業株式会社、(株)三陸新報社、有限会社サトー孔版印刷 代表取締役 佐藤雄二、株式会社東北プリント、学校法人明和学園いずみ高等支援学校 理事長 遠藤正敬、石巻魚糧工業株式会社、常盤化工株式会社、志津川オリエン工業株式会社、宮城日野自動車株式会社、ワタヒョウ株式会社、(株)ショクテン、上西産業株式会社、学校法人 仙台育英学園、塩釜商工会議所 会頭 桑原茂、宮城県自動車事業協同組合、白石商工会議所、仙台和光純薬株式会社 代表取締役 太田三郎、東北特殊工業株式会社 代表取締役 赤間一司、(株)藤崎、学校法人朴沢学園、アツミ自動車株式会社、株式会社宮城テレビ放送 経営推進部、株式

会社メガネの相沢、株式会社渡辺採種場、仙台商工会議所、カメイ株式会社、弘進ゴム株式会社、宮城十條林産株式会社、カメイ物流サービス株式会社

■議会

丸森町議会、涌谷町議会、松島町議会、大河原町議会議員互助会、大衡村議会、村田町議会、利府町議会、石巻市議員会、名取市議会議員会、多賀城市議会、女川町議会、七ヶ浜町議会、蔵王町議会、七ヶ宿町議会、柴田町議会、色麻町議会、富谷市議会、栗原市議会、亶理町議会議員会、美里町議会

■岩沼市議会

酒井信幸、沼田健一、植田美枝子、高梨明美、佐藤剛太、佐藤一郎、飯塚悦男

■山元町議会

高橋眞理子、竹内和彦、遠藤龍之、丸子直樹、大和晴美、渡邊千恵美、品堀栄洋、岩佐秀一、齋藤俊夫、岩佐孝子、伊藤貞悦、菊地康彦

■大郷町議会

石垣正博、赤間則幸、鈴木利博、鎌田暁史、赤間繁幸、鈴木恵子、金須新一、熱海文義、高橋重信、石川良彦、田中三恵子、佐々木和夫

■塩竈市議会

鈴木悦代、柏恵美子、西村勝男、今野恭一、志子田吉晃、鎌田礼二、辻畑めぐみ、伊勢由典、小高洋、土見大介、伊藤博章、小野幸男、桑原成典、菅原善幸、鈴木新一、佐藤公男、浅野敏江、志賀勝

■医師会

■遠田郡医師会

医療法人社団 博亮会 野崎病院、袖井文二、熱海智章、佐藤諒、美里町立南郷病院

■角田市医師会

金上病院、(医)社団 小川整形外科クリニック、医療法人 安達同済会 同済病院

■岩沼市医師会

町田幸雄、結城道広、板橋隆三、医療法人五葉会 山本クリニック、医療法人社団 みやぎ清耀会 緑の里クリニック

■名取市医師会

丹野尚昭、星勝彦、益子啓、曾我良輔、小林芳江、佐藤滋、医療法人社団 洞口会 名取中央クリニック、宮城県

立がんセンター、桑島一郎、原田雄功、金澤義彦、佐々木英彦

■黒川医師会

遠藤敦、公立黒川病院、吉岡まほろばクリニック

■柴田郡医師会

安田京、伊藤辰夫、甘糟仁、医療法人社団北社会 船岡今野病院、大沼勝、庄司則文、(医)玉川 太田内科、河内三郎、国民健康保険 川崎病院、平井完史、猪股芳文、みやぎ県南医療生活協同組合 しばた協同クリニック、みやぎ県南中核病院 附属村田診療所、宮上順志

■登米市医師会

医療法人二瓶内科胃腸科医院、八嶋中央診療所、遊佐不三雄、三浦守正、佐藤厚史、登米市立豊里病院、登米市立登米市民病院

■桃生郡医師会

櫻井忠実、医療法人 医徳会 真壁病院、医療法人社団 信和会 ものうファミリークリニック

■仙台市医師会

山口尚、田所慶一、豊田隆謙、藤田直孝、五十嵐丈太郎、西抜和喜夫、棚橋善克、長池文康、森洋子、松永弦、湯村医院、丹野恭夫、(医)秀放会仙台総合放射線クリニック、京極士郎、永井幸夫、長島道夫、医療法人 かんとうクリニック、山本眼科医院、吉田仁秋、社会医療法人 康陽会 中嶋病院、目黒由紀、鬼怒川博久、妹尾重晴、樋渡信夫、飯田剛、木村真人、古川加奈子、馬場安彦、医療法人社団 三好耳鼻咽喉科クリニック、松田恵三郎、医療法人 社団 櫻井内科医院、佐藤弘房、渡邊浩光、渡辺新吉、嘉数太郎、森俊彦、八木山内科・皮膚科クリニック、町田晶子、草野仁、宮田隆光、結城広光、医療法人社団 秀薫会 池田クリニック、堀克孝、遊佐明、林未来、医療法人 ひろせ会、阿部慎哉、小池良樹、高橋剛、医療法人社団 仙台腎泌尿器科、菊地亮介、笠井豊、相田重光、医療法人 宏人会、和田裕子、佐藤俊裕、菅原克明、國井周太郎、西尾美栄子、浅沼孝和、橋本志奈子、大澤寛寿、(医)星世会 ほし外科医院、医療法人 貝山仁済会、大方俊樹、国家公務員共済組合連合会 東北公済病院、佐藤泰彦、助川泉、安田病院、森元富造、千葉守、佐藤玄德、公益財団法人 仙台市医療センター 仙台オープン病院、今井克忠、プレシオーソ クリニック、伊藤賢司、小林美樹子、清水雅行、佐藤茂、村口喜代、椎葉健一、高梨芳崇、今村茂、宮澤佑二、医療法人 有麟堂 堀田内科、佐藤彰、氏家裕明、大山明、太田憲道、工藤洋

平、川島孝一郎、一般財団法人 広南会 広南病院、一般財団法人 厚生会、仙台赤十字病院、社会医療法人 杏仁会 河原町病院、阿部薫夫、黒本暁人、高柳義伸、井上重夫、曾根眞一郎

■塩釜医師会

(医)こがね雅会 こがね医院、無量井泰、遠藤和敬、渡辺広己、山田憲一、今井信行、医療法人 卓敬会 まえひらクリニック、医療法人 米地会 よねち内科クリニック、松下真史、平澤頼久、菌部太郎、遠藤レディースクリニック、杉山幸一、じょうなんファミリークリニック、大井嗣和、山田耕道、関口淳一、佐々木泰夫、医療法人社団中正会 本間医院、林義峰、医療法人 實樹会 仙塩利府病院、藤野茂、塩釜医師会 消化器部会、塩竈市立病院、医療法人社団赤石会 赤石病院

■大崎市医師会

有馬和夫、古川星陵病院、医療法人 永仁会 永仁会病院、(医)星眼科医院、菊地玄、沼田功、森啓之、大崎市病院事業 大崎市民病院 岩出山分院、医療法人社団 慈篤会 三浦病院、岡村智佳子、佐藤和朗、近江徹廣、大崎市病院事業 大崎市民病院

■白石市医師会

佐藤秀一、公立刈田総合病院、小松和久、大泉記念病院、(医)梅津内科医院、佐藤恒明

■亶理郡医師会

三浦俊治、松村吉史、高橋良正

■栗原市医師会

宮城島堅、三浦正明、菊田公一、栗原市病院事業 栗原市立若柳病院、栗原市立栗原中央病院、佐々木浩、医療法人社団 玄成会 達内科、佐々木裕之

■加美郡医師会

医療法人 佐々木胃腸科、伊藤健太、加美郡保健医療福祉行政事務組合 会計管理者

■東北大学医師会

小池智幸

■宮婦連

■松島町婦人会

岩本克子、天野安子、大橋るい子、高城尚子、鈴木紘子

■逢隈婦人会

菅生和子、佐藤礼子、三品美智子、渡辺芳、齋藤多寿子

■一迫婦人会

狩野良子、三浦一子、菅原郁子、松田文子、鹿野よし子

永野支部婦人会
佐藤ひさ代
遠田郡地婦連
中埠地区 大石富久子、南郷地区 佐々木敬子、涌谷町
地域 瀧川澄江、小牛田地区 鑑清枝
塩釜市地域婦人団体連絡協議会
阿部豊子、小野秀子、浅野ひろ子、三浦あいこ、我妻キ
クエ、中村和子、大野照子、小野和恵、山路幸榮、浅野
敏江、千葉知子、佐々木和恵、鈴木綾子
丸森婦人会
上村文子
荒浜婦人会
穴戸ひろ子、濱野かじ子、須郷貞子、佐藤富美子、渡部
とし子、永濱由紀子、森恵子、阿部ミヤ子
志波姫婦人会
三浦末枝、菅原峰子、相馬桂子
七ヶ浜町婦人会
千葉志美枝、佐藤美代子、相澤由美子、伊藤志久子、星
淑子
若柳婦人会
千葉和子、川嶋祐子、西島たか子、三浦千代、鈴木ひで子
女川町婦人会
木村佳代子、鈴木信子、勝又菊枝、東海久美子、佐藤えい
子、小山栄子、高橋京子、岸サワ子、梁取礼子、遠藤悦子
新田婦人会
小林愛子、伊藤ゆみ子
大内婦人会
作間由子、石田真利子、森れい子
大和町吉岡婦人会
児玉久子、浅野洋子、若生みさを
大和町吉田婦人会
今野玉枝、堀籠美江子、佐々木裕美
大和町鶴巣婦人会
阿部昭子、犬飼元子、門間勝枝
白石市地域婦人団体連絡協議会
大野のり子、志賀千賀子、吉川淑子、斎藤ゆう子、佐藤
きよ子、島影幸子、大野キミノ、太田さき子、渡邊幸子
筆甫婦人会
目黒房子
利府町婦人会
西澤久子、小山田律子、亀山律子、大友明美、林せつ子、
小山田加代子、伊藤喜美子、本間美代子、佐藤ちよ、橋

本こずえ、貝山昭子、品部陵子、永塚清子、伊藤みつ子、
佐々木順子、佐々木美貴子、伊藤恵子、江湖文枝、小幡
康子、高橋サヨ子、佐藤佳子、村上豊子
亘理婦人会
相原成子、戸引よし子、馬場さえ子、高橋泰子、佐藤キク
ヨ、渡辺みつ江、岩見富子、佐藤徳子、小野寺貞子、三戸
部とし江
館矢間婦人会
佐藤瑞枝、和田百合子
栗駒婦人会
佐藤かち子、佐藤多恵子、菊地寿美子
東松島市婦人会
石垣とみえ、伊藤百合子
東松島市矢本婦人会
千葉成子、木村礼子、田中敬子、津田美枝子、佐藤豊
子、河嶋清子、浅野美枝子
新月婦人会
■みやぎよろこびの会
佐藤艶子、中川ユリ、根元京子、齋藤ミツ子、千葉昌男、
後藤ふじゑ、佐藤たまを、大泉ちね子、萬里崎吉政
■個人
安西良一、村上裕重、小田切千恵、西條尚男、市川信昭、
笹原啓子、亀岡直樹、平田誠、中澤さく子、石黒典子、佐
藤好子、安藤裕子、佐野國男、鈴木八郎、佐藤孝之助、
弁護士 小松亀一、佐藤いせよ、亀山米子、只野一宏、安
住泰子、ひまわり法律事務所 弁護士 佐々木健次、久保
田光子、渡部英夫、武田雅比人、稲垣晃、菊地民子、関
口清、遠藤好英、佐々木博司、久道真一、久道貴子、岡
嶋泰子、内海春壽、伊東正一郎、阿部はつ江、佐藤朝
子、本郷町内会 会長 佐藤達朗、谷川原真吾、弁護士法
人三島法律事務所、高橋堅固、松坂法律事務所 弁護士
松坂英明、櫻田孝子、山口正一、加藤玲子、犬飼健郎法
律事務所 弁護士 犬飼健郎、村山すみ子、渥美ヤエ子、
浅野篤、坂田雄一郎、櫻田良子、佐々木政子、土井きよ
ゑ、久道悦子、越後愛子、三浦トキエ、阿部美代子、大山
勝彦、中村繁子、阿部せつ、塩崎晴朗、武者盛宏
■職員
布田直樹、及川貴司、湯田教恵、伊藤尚人、泉田京子、齋
藤千晴、永窪紀代美、阿部洋

住友生命保険相互会社仙台支社様から 1,032,960円のご寄付を贈呈していただきました

2024年6月、9月、11月の3回にわたりご寄付をいただきました。

今回いただいたご寄付は、住友生命保険相互会社様の職員の皆様が保険商品をお客様に1件説明するごとに10円が当協会に寄付されるというユニークな取り組みによるものです。

保険商品の説明の際には、当協会の普及啓発活動にもご協力いただきました。

この度は誠にありがとうございました。

住友生命保険相互会社仙台支社長麻生賢一様(右)
当協会下瀬川徹会長(左)



賛助会員(個人・法人の継続寄付)を募集しております

当協会では、がんに関する正しい知識の普及啓発、がんの早期発見・早期治療のための調査研究等の事業を行っています。このような事業活動は皆様からの尊い寄付により支えられています。

なお、寄付金については税制上の優遇措置を受けることができます。個人の方からの寄付金は、所得税において優遇措置対象となり、寄付者の方は確定申告の際に従来の「所得控除」と「税額控除」のいずれか有利な方を選択して控除を受けることができます。法人の寄付金に対する優遇措置としては、「特定公益増進法人」に対する寄付に該当しますので、法人税法上の規定による限度額が損金として認められます。



寄付金の種類

- 賛助会員寄付 協会の活動をご支援いただき、毎年ご寄付をしてくださる方
 - 個人会員 10 1,000円以上の寄付者(個人)
 - 法人会員 10 10,000円以上の寄付者(団体・法人)
 - 特定維持会員 寄付金の額を定めて「がん征圧運動」に一層の協力支援をいただいている法人
- 篤志寄付 協会の活動に対する一時的な寄付金
- 黒川基金 黒川利雄がん研究基金のためと使用を指定した寄付金

がん征圧に向けた、あたたかいご支援ご協力をお待ちしております。

ご寄付のお申込、お問い合わせは下記までお願いいたします。

公益財団法人 宮城県対がん協会 法人総務課 法人事業係

〒980-0011 仙台市青葉区上杉5-7-30 TEL 022-263-1637 FAX 022-263-1548
ホームページアドレス <https://www.miyagi-taigan.or.jp>

2025年度「黒川利雄がん研究基金」による研究助成金の応募要領

趣旨

この基金は、1989年(平成元年)に宮城県対がん協会の初代会長故黒川利雄先生の遺志を受け、がんの予防および早期発見に関する技術の開発等に係わる医師等の研究助成を行い、がん対策の長期的な展望を開くために創設した。

2024年度までに、143人に対し9,110万円の助成金を交付している。

研究対象分野と応募資格

我国のがん予防および早期発見に関する技術の開発等、がん対策に係わる研究を行う50歳未満の個人および団体で、以下の研究分野を対象とする。

なお、公益財団法人宮城県対がん協会の理事、貴所属長またはそれに準ずる者の推薦を必要とする。

■1がんの疫学および集団検診に関する調査・研究・開発

■2がんの早期発見および治療に関する調査・研究・開発

■応募件数および推薦件数

同一施設・分野からの応募は1件までとする。

推薦者が推薦できる研究は1件までとし、他の申請の共同研究者になることはできない。

■助成金の額

助成総額は220万円とし、研究助成金1件あたり100万円を限度とする。

■応募方法

応募希望者は、当協会ホームページより申請書類(報告書式を含む)をダウンロードの上、下記住所あてに郵送で申し込むこと。尚、応募締切期日は、次項のとおりとする。

〒980-0011 仙台市青葉区上杉5丁目7番30号

公益財団法人 宮城県対がん協会

「黒川利雄がん研究基金」事務局 宛

TEL.022-263-1637 FAX.022-263-1548

<https://www.miyagi-taigan.or.jp>

■期 日

[応募締切] 2025年3月末日

[発表] 2025年5月予定

[交付] 2025年6月予定

■発表方法

選考の結果については、申請者及び推薦者宛に通知する。

■選考方法

公益財団法人宮城県対がん協会「黒川利雄がん研究基金」運営委員会において審査し、会長が決定する。

■研究成果の報告

本助成金を受けたものは、翌年3月末日までに研究の成果(業績)を提出することとし、研究が完結していないときは、中間報告として提出すること。

報告書式は申請書類に含まれる研究報告書の通りとし、研究成果を発表した場合は、その別刷りを提出すること(電磁媒体でも可)。また、研究報告には会計報告も添付すること。

研究報告の提出先は「応募方法」記載の宛先に同じ。

(電磁媒体での報告の場合…

houjin@miyagi-taigan.or.jp)

なお、研究報告書が提出されない場合、または研究の取り止めもしくは中止した場合については、研究助成金の交付は取り消しとする。その場合、研究助成金を速やかに黒川利雄がん研究基金に返金すること。

■注意事項

①本助成金により研究成果を発表する場合は「黒川利雄がん研究基金」によることを明記すること。

This work was supported in part by a Grant-in-Aid from “KUROKAWA CANCER RESEARCH FOUNDATION”

②助成金について、申請者の所属団体においては間接経費の免除をお願いいたします。